

冷間圧造用鋼線のプロフェッショナル



冷間圧造用鋼線



冷間鍛造部品

大阪精工株式会社

**800種類の鋼種、
8000種類の
製造工程に対応**

洗練された技術力と確かな実績により、顧客の信頼を得てきた大阪精工。「製品の幅広さが当社の強み」と言う澤田斉社長の言葉通り、冷間圧造用鋼線、異形鋼線・鋼棒、みがき棒鋼、切断・冷鍛スラグ、冷間鍛造部品、精密二次加工部品等、その豊富なラインナップは同社の特長である。

なかでも柱と言えるのが冷間圧造用鋼線。自動車や建設機械に使われている同製品は、多くの材質を取り揃えており、サイズも広範囲にわたる。約800種類の鋼種、約8000種類の製造工程を誇り、顧客のあらゆるニーズに応えてきた。

最高の素材で作る最高の製品

冷間圧造用鋼線と共に同社の主力を成すのが、冷間鍛造部品。同製品は社内で一貫生産されており、そのため低コストでの製造が可能。また生産設備も充実しており、徹底的に顧客本位の体制を整えている。高い技術力に支えられた同製品は主に自動車に用いられており、使用箇所はエンジン、シートベルト、ブレーキ、インジェクション等、枚挙にいとまがないほどである。

最高の製品を目指す澤田社長は、その条件として「素材」の大切さを挙げる。「冷間圧造用鋼線の製造技術、冷間鍛造技術、そして最高の素材が一つになって、最高の製品ができる」。

そのため同社では、取引先である神戸製鋼所の協力のもと、素材の追求にも取り組んできた。蓄積された技術と良質の素材がハイクオリティの製品を生み出していく源泉だ。

「大精塾」で社員の能力を向上

顧客満足度を高めるために、同社はあらゆる試みに積極的に取り組んでいる。

「大精塾」と呼ばれる社員向けの勉強会では、技術の伝承だけでなく、社員の能力をオールラウンドに向上させることを目指している。

また社員から様々な提案を随時受け付ける制度も設け、社員のモチベーションを高めることに貢献。「常に顧客の変化を捉え、サポー

トすることが大切。そうすることによって、信頼を勝ち取ることができるようです」と澤田社長は語る。明確な目標を持ち、それをしっかりと見据え、今やるべきことを実践しているのだ。

本社と奈良工場を拠点に事業を展開してきた同社。今やその事業は国内だけにとどまらない。平成14年にはアメリカに冷間鍛造部品製造会社を設立。平成19年には中国において特殊鋼線製造会社の設立に参加した。傑出した技術力を駆使し、海外での成功も目指す。

主な事業内容

冷間圧造用鋼線・異形鋼線・鋼棒、みがき棒鋼、切断スラグ・冷鍛部品、精密二次加工部品の製造等



澤田 斉さん
取締役社長

大阪精工株式会社

Company Profile

住所 / 〒579-8014
大阪府東大阪市石切町5-7-59
設立 / 昭和35年3月
資本金 / 4,400万円
従業員 / 209名 (平成21年1月現在)
TEL / 072-982-2721
FAX / 072-987-1094

ISO 9001
ISO 14001

関西
19

<http://www.osaka-seiko.co.jp/>